一般社団法人なないろの空

令和６年度（令和５年度からの繰越分）
障がい福祉分野の ICT 導入モデル事業
事業報告

障がい福祉分野の ICT 導入モデル事業公表　R7.8.27

事業所概要

サービス種別	障害福祉サービス　放課後等デイサービス
所在地	出雲市
職員数 （　）内は常勤換算数	６名（６名）
事業所の特徴	障がい児が生活能力の向上のために必要な支援を行い、及び社会との交流を図ることができるよう、障がい児の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて適切かつ効果的な支援を行う。

導入機器

導入した ICT	ノートパソコン

ICT 導入の背景・目的

導入前職員間での状況（事業所が抱えていた課題）

パソコンの稼働数に限りがあり職員間で共有して使用しているため、時間がかかります。パソコンの導入に伴い支援記録等の事務作業を各職員（1人につき1台）ごと行うことが可能になれば業務に集中して取り組めるようになります。
令和6年度の報酬改定に伴い個別支援計画、業務日誌、等のパソコン入力業務が増え、業務が滞る状況があります。台数が増えることで、毎日一定の記録業務をができ、業務をスムーズに進めることができます。
支援に使う手書きの手順書、説明文等の作成に時間がかかります。従来の手書きの手順書をパワーポイントや画像、動画で行うことにより、準備時間の短縮になります。児童にとっても、内容がより伝わりやすく、モチベーションの向上や積極的な活動参加にも繋がります。
また、従来パソコンの使用は、労務管理を主として行っていましたが、今後は支援の分野でおおいに役立てていけると考えます。

導入後の効果（ICT 機器等を導入した業務内容）

パソコンの稼働数に限りがあり職員間で共有して使用しているため、時間がかかっていましたが、パソコンの導入に伴い支援記録等の事務作業を各職員（1 人につき1台）ごと行うことが可能になり業務に集中して取り組めるようになりました。
令和6年度の報酬改定に伴い個別支援計画、業務日誌、加算取得等のパソコン入力業務が増え、業務が滞る状況がありましたが、台数が増えることで毎日一定の記録業務をができ、業務をスムーズに進めることが可能になりました。
支援に使う手書きの手順書、説明文等の作成に時間がかかっていました。従来の手書きの手順書をパワーポイントや画像、動画で行うことにより、準備時間の短縮になりました。児童にとっても、内容がより伝わりやすく、モチベーションの向上や積極的な活動参加にも繋がりました。
従来パソコンの使用は、労務管理を主として行っていましたが、今後は支援の分野でおおいに役立てていきたいと考えております。

ICT 導入の実施体制の整備・事業所内研修

法人代表から資料により、令和6年度　障がい福祉分野の ICT 導入モデル事業の活用について説明

放課後等デイサービスは、児童を対象とした仕事です。実際に支援をする上では児童やご家族、職員間、事業所全体とその関係機関との間で様々な情報共有が大切になります。その中で、必要な情報をデジタル化し、業務を円滑にするためにパソコンは欠かせないものです。
また、近年研修もズームや YouTube での配信が主流となり、支援に必要な情報収集や教材準備の為にもパソコンは欠かせないものとなっています。

職員の意見

〇現状、書類仕事に時間がかかり、支援の準備の時間や自己研鑽の時間が充分に取れないなどの課題があります。各自がパソコンを持って仕事を進めることで、書類作成に要する時間が削減でき、さらに必要なときにはいつでも簡単に見返すことができるため業務効率が上がり、職員の負担が軽減されるだけでなく、空いた時間で児童とのコミュニケーションを図る機会、支援に費やす時間が増やせるということは大きなメリットになると思います。

〇支援の現場では、不適応行動の記録、ヒヤリハットの記録、てんかんの発作の記録、排泄の記録等日々続けていくことで傾向と対策に繋がり、申し送り事項の引き継業務の効率化や伝達漏れの防止、同じ視点での支援提供にもなります。また、情報伝達のスピードロスをなくすことで、支援を行う上でのトラブルも未然に防げる可能性があるのではないでしょうか。

〇ご家族との情報共有の際もデジタル化して、その日の様子を文章と写真でお伝えすることで、手書きよりもデジタルの方が相手にも見えやすく、写真があることで情景が想像しやすくご家族とのコミュニケーションが円滑になるというメリットもあると思います。

〇職員の負担を軽減することで、職員の入れ替えが少なくなり人員が安定しているため支援の質の向上にも繋がると思います。児童にとっても支援者が変わらないことで、精神的な安定が図れるため、よりスムーズな支援に繋がっていくと思います。

研修受講日時　令和7年2月12日（水） 13:30～15:30

研修受講場所　放課後等デイサービスなないろの空　事務所（オンライン形式）

研修用務　ICT 導入研修会（ICT 導入モデル事業費補助金の交付の要件）

主催　島根県健康福祉部障がい福祉課　サービス育成係

講師　（株）インサイト取締役　チーフコンサルタント　北野　喬士　氏

概 要

1．基本編　・ICT化とは？
・なぜ福祉現場においてICT化が求められているのか？
・ICT化の進め方

2．事例編　・ICTを活用した業務改善手法の紹介
情報共有
会議
利用者情報管理
記録

3．ICT導入補助金活用した実績報告書分析結果

意見・感想

この研修を通して、ICT化の一番の目的は業務改善であると気づかされました。
職員の負担の軽減等によって、より質の良い支援を提供するために機器を導入するので、現場の意見を反映していく必要があります。ICT機器導入事例の話を聞き、導入したらすぐに業務の効率が良くなるということではなく、職員が機器を使用していく中で、職員同士で課題を理解して解決しながら、時間をかけて効率化を計っていると感じました。
ICT導入研修会に参加させていただき、ありがとうございました。

ICT機器等導入前の定量的指標及びICT機器等導入により想定される定量的指標

業務内容	業務従事者数	発生件数		C. 1件当たりの平均処理時間	年間業務時間 D（B×C）	1人あたり業務時間（D／業務従事者数）
		A.ひと月当たり	B.年間発生件数（A×12）			
支援記録	4 人	20 件	240 件	40 分	160 時間	40 時間
活動準備(手順書の作成等)	4 人	20 件	240 件	50 分	200 時間	50 時間
請求業務	1 人	15 件	180 件	20 分	60 時間	60 時間
		55 件	660 件	110 分	420 時間	150 時間

ICT導入モデル事業　効果検証

ICT機器等導入後に係る想定業務時間内訳

業務内容	業務従事者数	発生件数		C. 1件当たりの平均処理時間	年間業務時間 D（B×C）	1人あたり業務時間（D／業務従事者数）
		A.ひと月当たり	B.年間発生件数（A×12）			
支援記録	4 人	20 件	240 件	30 分	120 時間	30 時間
活動準備(手順書の作成等)	4 人	20 件	240 件	30 分	120 時間	30 時間
請求業務	1 人	15件	180 件	15 分	45 時間	45 時間
		40 件	660 件	75 分	285 時間	105 時間

年間業務時間数想定削減率（%）

32.1%

・現在手書きで時間をかけて行っている作業をパソコン作業に切り替えるため。
・台数が増えることで職員間でのパソコン共有がなくなり業務がスムーズになり、それぞれの職員にパソコンがあることで業務に専念できる
・セキュリティーの強化と業務短縮を目的として、業務別にパソコンを使用。職員が事務作業で使用するパソコン（3台）請求業務専用のパソコンが必要（１台）
ご家族等への情報発信のためのパソコン（１台）家族支援のため訪問家庭支援等で使用する持ち運び専用のパソコン（１台）

・令和６年度の報酬改定に伴い個別支援計画、専門的支援実施加算、業務日誌等のパソコン入力業務が増えましたが、パソコンの導入によって一人一人の職員が事務業務に集中して取り組めるようになりました。
・文章の修正、確認等の対応が迅速にできるようになり、職員間で情報の共有、意見交換等をより活発に行えるようになりました。
・支援に使う手書きの手順書、説明文等も手書きで作成していましたが、パワーポイント、画像、動画等で行うことにより、職員の準備時間の短縮になりました。
児童にとっても理解がしやすくなり、意欲的な活動の参加に繋がっていると思います。
・放課後等デイサービス事業の仕組みが社会の流れと共に変化していく中で、職員が変化に対応しながら継続して業務を行うために、今後もソフト等のICTを利用していくことが必要だと感じました。